

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400523		
法人名	特定非営利活動法人 ウエルネットぎふ		
事業所名	ロングステイホーム めくもり		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町新町2504番地1		
自己評価作成日	平成22年10月10日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170400523&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 んぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南瀬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成22年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所はデイサービスを併設しており、毎日デイサービスに参加して機能訓練等を施行し生き生きとした生活をしています。また、「めくもり農園」へ出かけ季節の野菜等の栽培や収穫をして施設の調理に活用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設サービスの質の向上には、職員の知識、技術のレベルアップが欠かせないため、職員の資質に応じたスキルアップを図るために個別指導(PC、資格取得研修等)が行われている。GHめくもりは「めくもり学校」と呼ばれるほど、日々学習する雰囲気がある。利用者に合わせて、野菜の収穫から食事の下ごしらえなど職員と一緒にいき、出来ることの場面作りの工夫があり、利用者の生き生きとした暮らしになっている。また、利用者全員が、階下のデイサービスに出かけ、デイの利用者と一緒に、様々な楽しみ事を行っており、みんな驚くほど元気である。この施設に入居して、介護度が軽くなった人もいる。車椅子の人が立てるようになった事例もある。真に、活気のある暮らしをしており、笑顔や笑い声が絶えない施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については定例会議の場において共有して実践につなげている。	理念は会議等で振り返りを行なうなど職員全員が共有して理解している。また、理念に沿った支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間の主な行事(消防訓練、側溝掃除や夏祭りなど)には参加の呼びかけをしています。また日常的に挨拶運動をしています。	市街地に施設があり、その地の利を活かし、地域との交流が盛んである。また、離れたところの畑を借りて、利用者が野菜等の栽培をしている。、その場所でも、その地域住民と仲良くなり、植える時期や肥料のやり方等教えてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	街燈を設置して地域の防犯に勤める一方、ゴミ等の収集場所として駐車場の一角を提供している。また地域住民、休息の場としてベンチを設置している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者やサービスの内容、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、サービスの質の向上に活かしている。	運営推進委員会は、2ヶ月に1回定期的に開催している。地域の民生委員や住民の代表、地域包括支援センター、家族等が参加し、活発な意見がでて、その様子が会議録にしっかりと記録され、参加していない職員に回覧して、共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に2～3回は高齢福祉課を訪問し連携を密にしている。	施設長が、多いときには週1回以上市役所を訪問して連携を密にしている。市から介護に関する情報も、早く入ってくるようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、施設内でマニュアルに基づいて研修をしております。また家族の同意を得て経過観察をしています。	身体拘束をしないケアを職員全員で確認し合っている。研修にも積極的に参加し、報告会で、共有を図っている。ただ、不潔行為により他の利用者に迷惑を掛けないように、家族の同意を得ながら、支援を行っている。プライバシーには十分、気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について講習を受けた職員が講師となり、虐待防止に努めていますのでありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護事業や成年後見制度に熟知しており、必要に応じてレクチャーしています。また、NPO会員のなかに司法書士もあり、いつでも相談できる体制になっています。また、愛知県でその道に著名な弁護士も常に連絡がとれます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の約款に基づいて説明させて頂き、不明な点などを随時説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度開催される運営推進会議において利用者、ご家族様のご意向を確認させて頂いています。	職員は、利用者と日常的な会話の中から、また家族には、面会時等、話し合う中で、意向の把握に努め、希望や意見を聞きだすように心がけている。意向や意見は職員会議等で話し合い、出きる事から実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングや職員の個別の懇談の機会で見聞を述べる事ができます。	施設長や管理者は、職員会議等で、職員が意見を出し易い環境を作り出している。また、職員との個別面談も、年数回、行っており、職員の意見が通りやすい体制が出来ており、出きる物から運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当事業所では介護看護職員のキャリアパスを構築し職場環境に勤めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ミーティングや職員の個別の懇談の機会で見聞を述べる事ができます。また、職員の資質に応じたスキルアップを図るために個別指導(PC、資格取得研修等)を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連帯事業で月1回他の事業所と交流を図りこれから合同研修会や講習会も予定されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族の不安や求めていることを把握する為、面談でニーズ、背景、要望を聞き毎日の声かけと見守りを大切に会議の場で情報を共有し安心確保に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人やご家族とは初回面談でこれまでのご家族の苦勞に耳を傾けニーズ、背景、要望を聞き取り、サービス利用状況を把握し本人、ご家族の気持ちを受け止めることに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応とし急激な変化を避ける為、まずデイサービス等の利用を進め、本人、ご家族の実情と要望を基に今までの生活と同様に最も馴染めるようニーズに対応可能なサービスに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日目線を合わせて会話し一緒に行動しながら楽しく和やかな生活ができるよう職員と共に協力し、職員と入居者同士の良好な関係を構築できるよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係が希薄なために絆等を構築することは困難です。(支払いのみで退出する家族もあります。預かってもらえれば十分とおっしゃる家族が大半です。)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	二人の利用者さんの家族は定期的な面会に来られますが他の方は施設から面会をお願いをしても支払い時にしか面会に見えません。	デイサービスの人が、施設利用者になるケースが多く、デイサービスのときから馴染みの関係が出来ている。また、利用者本人が、かかりつけ医や墓参り、地元の祭りなど、馴染みの人と出会う場面作りにも支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症も進行し皆さん自分の事で精一杯でお互い支えあう事は難しいです。利用者同士が会話できるよう車椅子の位置は配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した方の家族で1年間当法人の会員になっておいでの方が1名見えました。(一般的には退去した家族は疎遠になりがちです。例外としてお元気なうちから施設事業に理解を示してボランティア活動等をしておいでの場合は例外と思われます。)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	車椅子で認知症も進行してきているため思いや希望を聞くことは難しいですが日常の関わり合いで洞察するよう心がけています。	今日、利用者が何をしたいか、施設でどういう暮らしをしたいか等、職員は利用者との会話の中で、本人の意向の把握をしている。また、話すことの出来ない利用者には、絵や文字を見せて本人の意志を確認している。本人のための支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	回想法で今までの生活歴を把握し、入居してからは行事の写真を見ていただき会話を広げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調に合わせて個々の能力に応じた役割やレクリエーション等を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員と計画作成担当者がGHのミーティングの場でサービス計画について話し合いをして作成しています。(ご家族の参加はありません。)	ケアマネを中心に、話し合う機会が多く、各利用者の生活の状態が、常に管理者やケアマネに知らされている。また、ケアプランの作成には、カンファレンスも行われ、本人や家族の希望や意見がしっかりプランに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録または支援経過、引継ぎノートに気づいた事や気になった事を記録しミーティングの場で生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の状況やニーズに対応するために当法人のデイサービス等の機能も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と八百屋に買い物に出かけたり、お寺、保育園に散歩に出かけたりした時に地域の人と話すこともあり交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診常に主治医とは連絡が取れるようになっています。1名の方については家族の希望で入居前からのかかりつけ医で受診しています。	なじみのかかりつけ医を希望される方には希望に添えるようにしている。通院は家族の同行を基本としているが緊急時には職員による代行も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の朝礼や週1回のミーティングの場で介護、看護職員との協力作業のなかで適切な受診、看護を受けています。些細な事でも職員は看護師にその場でわからない事があれば尋ねるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関(松原医院)、羽島市民病院とは患者情報を共有しGH入居者の入退院や入院患者のGHへの受け入れに連携を保っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では経口摂取ができなくなるまで介護する旨を入居時に説明させて頂いていますが今の所、終末期は病院を希望されるご家族様がほとんどです。	重度化しても医療行為がない間は事業所にて対応している。終末期の対応は病院を希望される家族がほとんどで事業所では行っていない。	グループホームでの看取りが求められてきています。事業所として看取りに対してどのような対応を行うか、看取りをするかしないかを含めて再度検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回羽島消防署の協力を得て救急救命講習を実施しています。今年度は運営推進会議の一貫として職員始めご家族、地域の方に声かけ施設内講習に参加頂いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間での火災通報及び避難訓練を定期的実施、消火訓練で合同訓練を再三提案させて頂いていますが高齢化地域である為、反応は乏しいのが現状です。	昼間の訓練だけではなく、職員が一人しかいない夜間を想定した訓練も行っている。できるところから備蓄も始めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員は日頃から言葉使いに気をつけ利用者様の思いを傾聴し対応させて頂いています。	利用者への声かけに対してつねに意識している。 レクリエーションの時など皆で楽しんでいる時でも自尊心を傷つけないよう言葉使いに気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進行してきており意思を表したり自己決定する事は難しくなっていますが、いろんな場面で本人に選択してもらう方法も活用しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活でありますので協調が得られるようお伝えし、他の利用者様とトラブルにならないよう配慮に努めています。個々にご希望に沿うことは難しくなりますが、ADLを維持しながら楽しく生活いただけるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員による声かけ又は介助をして整容を実施されています。過剰なおしゃれは費用がかかりますので家族の理解・同意が必要となり難しいのが現状です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のできる能力に合わせて、野菜の収穫から食事の下ごしらえ、食膳の台拭きのお手つだいを一緒にします。できる方はわずかとなります。	野菜の収穫や豆むき、菜の揃えなどの下ごしらえや食後のテーブルふきなど利用者が出来る事を一緒に行っている。食前に献立を紹介しており、おいしく食べる工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々の食事摂取量や水分量を毎日把握し健康管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、食後(3回)には必ず口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	手引き歩行や車椅子介助の利用者さんでもトイレ誘導しています。夜間はポータブルを使用しています。	個人毎の排泄パターンを記録しそれに合わせた声掛けや誘導を行っている。オムツの使用をできるだけ避け、トイレを利用するように排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンを知り、便秘の方に水分を多めに摂取してもらったり繊維質の食事の提供にも努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は施設のスケジュールに合わせて実施しています。	週3回の入浴を行っているが体調や気分などで日を改めるなどしている。特に必要な場合はシャワーを使用するなどの対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて休息したり安心して気持ちよく眠れるようベッドを設置しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の効能を理解して誤薬のないように二人で確認をして、服薬したことによる症状の変化がないか観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業療法としてぬくもり畑へ農作業に行ったり、プランターの花のみずやり、草取りをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに合わせる支援は難しいこともありますが、天気の良い日は散歩に出かけたり、月に1回喫茶店に行ってます。	利用者の気分転換もかねて天気が良ければ毎日のように外出を行っている。近所の別院に散歩に出かけたり、近所のスーパーや畑に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用様が施設内で金銭を所持するのは紛失の恐れがありますのでお断りしています。施設では月1回程度、喫茶店にお連れして金銭感覚の維持に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	対話するのが難しい方が多く電話や手紙のやり取りはしていませんが、週1回家族の送迎で自宅に帰られる方や施設送迎で自宅に帰る方を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はご利用者様にとって不快や混乱を招くことのないように配慮しています。壁面には季節感をもし出すように作品が掲示されています。	日中はデイサービスで過ごす事がほとんどで、天井も高く広い居心地の良い空間を作っている。落ち着いて過ごせるように飾り付けに気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者はすべてADLが低下しているため、常に見守りが必要です。危険が伴うために独りにしておくことはできません。但し、気のあった同士が語り合える場を常にしつらえています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族様と歓談できるように十分なスペースを確保しています。使い慣れた物の持ち込みをお願いしていますがほとんど持ち込みは有りません。	馴染みの品を持って来られる方は少ないが、自分たちで作成したカレンダーなどの作品を飾っている。就寝時以外はあまり居室を利用されていないが、落ち着いた雰囲気を出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部は一人ひとりの能力を勘案して「できること」「わかること」を活かせるように努めています。具体的にはタオルたたみやテーブル拭き、新聞紙の整理など一緒にお手伝い頂いています。施設内においては目印や張り紙で誘導の工夫をしています。		